

令和6年度 府立鳥羽高等学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）（計画段階）

全日制課程
令和6年4月22日

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「自律する人間」の育成をめざし、教育方針「人間性」「先駆者精神」「克己」の理念をあらゆる教育活動に活かし、知・徳・体のバランスに配慮した生徒一人一人の学力の向上と個性の伸長を図り、グローバル時代に期待される人材として次の6つの資質・能力を育む。</p> <p>①歴史をとらえて世界を俯瞰する力 ②多様な文化的背景を持つ人と協働する力 ③科学的に思考・吟味する力 ④新たな価値を創造する力 ⑤課題解決の枠組みをデザインする力 ⑥困難な状況を突破する力</p>	<p>学習指導：ICTを活用した授業が標準的に行われ、また、スタディサプリを活用するなど生徒が主体的に学習に取り組む態度を養うことを意識しながら指導が行われた。各学年、各教科と連携し模擬試験の分析を行なうとともに、授業改善に繋がる課題を見据えることができるよう取り組んだ。その成果を活かし、個々の教員の授業の質の向上をさらに図る必要がある。</p> <p>生徒指導：ルールやマナーについて、学年部と連携しながら、生徒にとって納得できる生徒指導を行った。また服装規程など、時代に合わせて改訂することができた。一方でiPadやSNSを化した問題行動が増加した点が課題である。</p> <p>人権教育：教職員研修について、LGBTQ+に関する内容で実施した。生徒の人権教育を実施する際、事前学習の時間の確保が課題である。</p> <p>進路指導：京都南ロータリークラブと連携した1年生対象のキャリア・ガイダンスは、将来働くことを意識させる取組として有意義であった。今後は、過去から継続して培われてきた進路指導のあり方を基盤に置きつつ、「活字を読んで考える」「書いて思考を整理する」学習活動を模索する機会を設ける、また進路面談を行うための環境整備を行う必要がある。</p> <p>情報教育：HAD会を4回実施するとともに、生徒及び各教科からICTを効果的に活用した好事例を収集し、共有することができた。ICT機器の活用に関わる生徒指導事案が発生したことから、情報モラル、リテラシーを高める指導を意識的に行う必要がある。</p> <p>読書指導：図書部からの積極的な情報発信や、多様なイベントの企画・開催によって、生徒来館者数は1日平均で1.2人増加させることができた。デジタル化された蔵書検索、レファレンス、電子書籍の閲覧等の活用を促進するとともに、教科と連携した書籍の充実にも努める。</p> <p>家庭・地域社会との連携：学校説明会では生徒が運営スタッフとして活動することで、参加者が入学後の生徒像を具体的に想像できるように工夫したことで、説明会参加者は全会において前年を上回った。またHPを通じた広報も積極的に行った。</p>	<p>(1) 自尊尊重の精神を基盤とする人権感覚を涵養し、規律ある中で互いに助け合い切磋琢磨する質の高い学習集団を作る。</p> <p>(2) 授業、学校行事、部活動を通じて対話や議論を重視し、学んだことを整理、体系化・系統化、応用、共同思考する力を育て、個性伸長と自律する人間の育成を図る。</p> <p>(3) ICTを活用し、グローバル社会との関連を重視しながらキャリア観を形成しつつ学力を伸長し、希望進路の実現を図る。</p> <p>(4) 「授業を中心とした学習だけで大学に行ける学校」をモットーに、教職員間で一致した受験指導を行う。</p> <p>(5) 単位制の特長を活かしながら、新学習指導要領のカリキュラム及び大学入学共通テストを見据えた科目研究をさらに進める。</p> <p>(6) 本校の教育実践や生徒の活動を中学生や保護者に積極的に広報する。</p> <p>(7) 働き方改革を進め、生徒と向き合う時間をより多く確保する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	総括	成果と課題
学習指導	単位制の特長を活かしたりベラルアーツ教育を推進し、生徒の学力・教養力向上を図る。	<p>生徒の知的好奇心を高め、あらゆる教育活動を通じて思考力・判断力・表現力を養い、生徒一人一人が主体的に課題を設定し自学自習に取り組むよう指導する。</p> <p>単位制及び観点別評価の実施による学習状況調査、授業評価、学力状況等の検証を行い、学科やコースの特色に応じた教育活動の改善を行う。</p> <p>ICTや探究活動を活用した主体的な学びを促進する。</p> <p>学んだことや自分の考えを活字化することで情報を整理しながら記憶の定着を図り、表現力を向上させる。</p> <p>生徒欠席連絡システムを見直し、迅速かつ正確に欠席状況を把握し、欠席者の学習補償につなげる。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	
生徒指導	<p>ルールとマナーを守る態度を育成する。</p> <p>これからの社会づくりに積極的に貢献する態度を育成する。</p> <p>組織的にいじめの未然防止を図る。</p>	<p>挨拶を交わす、正しい言葉を遣う、身だしなみを整えることは、マナーの基本であることを理解させ、実践できるよう指導する。</p> <p>無断撮影、特殊詐欺、消費者被害等、SNSを介した犯罪に巻き込まれないよう未然防止の取組を行う。</p> <p>生徒会、各種委員会、クラス活動、ボランティア活動などを通じて、協働する力と社会参加への意識を養う。</p> <p>部活動を通して、技能を修得するだけでなく、思考力・判断力・表現力を育成し、主体性・意欲の向上につながるよう指導する。チーム内で切磋琢磨し、より高い目標を設定し、突破する力を養う。</p> <p>いじめについての理解を深めるとともに、日頃から人権意識を高め、生徒から相談されやすい関係を醸成する。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	
人権教育	あらゆる教育活動をとらえて人権教育を推進する。	<p>自他を尊重し人権問題を自分ごととして考える精神を養い、多様化・複雑化する人権問題の解決に向けた人権教育を推進する。</p> <p>人権学習の事前、事後指導を効果的に行うよう工夫する。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	
進路指導	<p>生徒一人一人の進路希望を実現する。</p> <p>職業観・勤労観を育成する。</p>	<p>分掌、教科、部活動との連携のもと、組織的な指導体制により、個に応じたきめ細かい進路指導を行う。</p> <p>国公立大学総合型選抜に対する学年別指導計画を作成し、実践する。</p> <p>望ましい職業観・勤労観を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力・態度を身につけさせるため、計画的・継続的に進路指導・キャリア教育を行う。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	
情報教育	タブレット等のICT機器を活用し、広く(グローバルに)、新時代(AI、Society 5.0)を主体的に、創造的に拓く態度を育てる。	情報モラル・情報リテラシーを身につけ、ICT機器を正しく効果的に活用することで、知識を体系・系統化、応用し、意見交流することができるようにする。	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	
グローバル人材育成	WWL事業実施校、グローバル・ネットワーク京都校として、グローバル・リーダーの素養を涵養する。	平常の授業に加え、国内外の人々との対話や協働活動をとらえて、多様性を尊重する態度及びグローバルな視野を持って思考・判断・表現する力を育成する。	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	
保健・特別支援	健康の保持増進と支援の必要な生徒の課題解決に必要な学校環境作りを進める。	検診等の結果を踏まえ、生徒の心身の健康の保持増進に努め、学校における保健管理、安全管理を適切に進めるとともに、支援の必要な生徒の教育的ニーズに応じて学習上、生活上の困難の改善を図る。	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	
読書指導	読書活動を推進する。	図書館からの情報発信や啓発活動、教科や総合的な探究の時間をはじめとする教育活動で、図書館利用を促進して読書活動を活性化させる。諸活動を通して表現力を高め、深い教養と豊かな感性を育成する。	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	
家庭・地域社会との連携	家庭・地域・社会との連携と交流を積極的に行う。	HPをはじめ、説明会や出版物等を通じ、本校の教育活動に関して幅広く積極的な情報発信を行い、本校への理解を深める。保護者向けデジタルツールを活用し、保護者へのタイムリーな情報発信を行う。	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	
施設設備・文書・情報管理	<p>学習環境の質を確保する。</p> <p>個人情報に配慮した文書管理・情報管理を行う。</p>	<p>生徒の安全を確保するとともに、よりよい教育環境づくりに向け施設・設備の充実を図る。</p> <p>紙文書、デジタルデータとともに、個人情報に配慮した適切な文書管理・情報管理を行う。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	

評価の基準 A：十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B：ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C：達成できているとは言えない。(成果はあったが、目標は達成できていない) D：ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校関係者評価委員会による評価	
次年度に向けた改善の方向性	